



令和 7 年 3 月 19 日

市政記者クラブ 様

経済局イノベーション推進部次世代産業振興課
担当：加藤(雅)、岩間 電話：972-2418

令和 6 年度フィールド活用型支援事業「Hatch Meets」実証プロジェクト



×



「サーマルカメラを用いた人物追跡による行動状況の把握」の 社会実証を実施中です！

「Hatch Technology NAGOYA」フィールド活用型支援事業では、フィールドを活用した社会実証を推進する産学官連携のネットワークコミュニティ「Hatch Meets」において実証プロジェクトを立ち上げ、社会実証を実施しています。

下記のとおり実証に取り組んでいますので、ぜひ取材してくださるようお願いいたします。

記

1 プロジェクトの概要

光学式の監視カメラは不審者検知等に広く用いられていますが、夜間など暗い環境では照明を併用する必要があります。画像撮影による常時監視をする場合は照明器具による電力消費がコスト面・環境負荷面で課題となります。

そこで本プロジェクトでは、赤外線を感じ取るサーマルカメラを用いた実証に取り組んでいます。サーマルカメラは人体など熱を発する物体を捉えるため、夜間でも撮影が可能です。サーマルカメラ画像の映像解析に特化した防犯 AI システムを開発し、不審者を検出します。

実証では人流解析の技術を応用し、人物の挙動から不審者かを判定する手法について検証します。また、本プロジェクトの特徴として、サーマルカメラの画像から、性別や年齢といった人物の属性把握に挑戦している点が挙げられます。赤外線画像は個人の差異の判別が難しく、解析技術は確立されていません。不審人物の検知だけでなく、人物の特定につながる属性の取得を将来的に目指しています。

2 実施主体

実証事業者	株式会社インテージテクノスフィア（東京都西東京市） 株式会社インテージホールディングス（東京都千代田区）
フィールド提供者	株式会社アビジ（愛知県名古屋市）

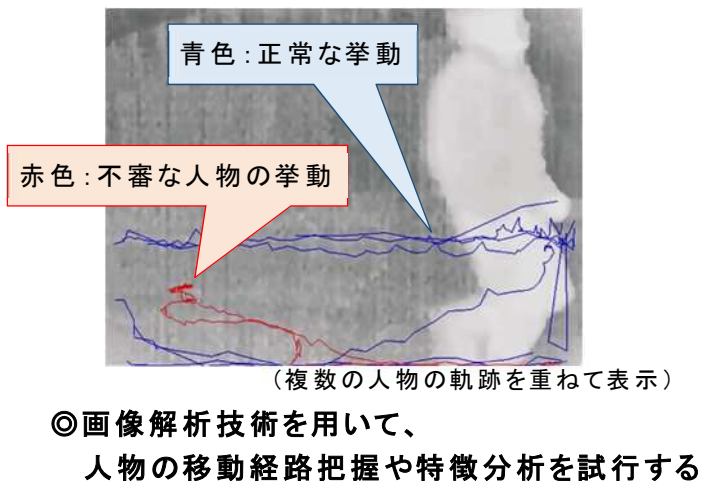
3 実証期間

令和 6 年 10 月 24 日から令和 7 年 3 月 31 日

4 実験方法および検証内容

実証フィールド提供者である(株)アビズの工場内で、サーマルカメラを用いた撮影を実施します。撮影中に、不審者が侵入するシーンを疑似的に再現し、得られた赤外線画像を解析します。

人物の挙動から不審者かを判定する技術には、実証事業者である(株)インテージテクノスフィアが独自に有する人流解析技術を応用しています。



5 今後の展開

将来的には、開発した AI をエッジ AI 端末に搭載することで、サーマルカメラの映像からリアルタイムで不審者を検知し、アラートを発報できるシステムとして、さまざまな企業のセキュリティ強化に貢献することを目指しています。

＜実証技術の活用イメージ＞

工場や大規模農場等での、盗難対策に

- ・ 広大な敷地を効率よく、24 時間 AI 監視
- ・ 滞在時間や時間帯と合わせ、許可されていない人物の存在や行動を監視

介護施設等での、利用者の見守りに

- ・ 歩容の違いや年齢推定から利用者を検出し、外出等をお知らせ

複合商業施設やイベント等での、客層分析に

- ・ 来店時刻や店舗間の移動ルートなど、年齢層による傾向の違いを分析

検証中！

照明不要で常時撮影
独自 AI で動画像解析

挑戦中！

対象人物の属性判定
多角的な解析評価が可能

6 問合せ先

- ・ 実証技術に関するお問合せ

(株)インテージテクノスフィア labelnote@intage.com (担当：根本、柴田)

◎取材用の日時は設定しておりませんので、取材いただける場合はお手数ですが、ご希望日を次世代産業振興課 (TEL：972-2418) へご連絡ください。

【参考】「Hatch Technology NAGOYA」は、技術の研究開発や社会実装を促進し、先進技術を有する企業等の集積を図るため、様々な課題に対応する先進技術を活用した社会実証を名古屋市が支援する事業です。

「フィールド活用型支援事業」とは、本市及び民間施設等を社会実証の場（フィールド）として活用するため、場の提供と課題の整理・解決をするネットワークコミュニティ「Hatch Meets」を産学官で立ち上げ、先進技術を有する企業等の提案や実証ニーズを実現するものです。

HATCH
TECHNOLOGY
NAGOYA
2024

※名古屋経済記者クラブに同日提供